



地域貢献賞

「かながわパチンコ・パチスロ社会貢献 20周年20億円達成記念事業」

神奈川県遊技場協同組合／神奈川福祉事業協会

平成17年(2005年)に「20周年20億円」を達成した神奈川県遊技場協同組合・神奈川福祉事業協会の社会貢献活動。内容は「福祉寄付事業」、「福祉自主事業」、「広報活動」に大別されるが、いずれも地域に密着した活動を実践しており、この20年間で市民に広く浸透していることが知れる。

地域とともに歩んだ20年 そこに数々の笑顔と感謝がある

昭和60年(1985年)。「風適法」改正に伴い、業界は大きな変革の時を迎えた。これを機に県遊協、地区組合、ホールなど関連業界・団体が協議して神奈川福祉事業協会を設立。「景品納入の三店方式」「暴力団介入の排除」「収益の一部を社会福祉に貢献する」の3点を柱に、地域に密着した活動を広く展開することになった。

同協会は、浄財ともいふべき財源の有効活用に配慮し、市民

の方にも認知してもらうためあらゆる各機会を通じて広報活動などを展開している。社会情勢や人々の意識が激変する中で、県民に愛される健全な娯楽の確立と、社会貢献活動の実践を着実に積み重ねてきたのである。

事業は「福祉寄付事業」、「福祉自主事業」、「広報活動」に分かれ、1つめの「福祉寄付事業」は、様々な団体への寄付事業を実践している。例えば日本赤十字社神奈川県支部には昭和60年(1985年)の設立当初から支援を続け、採血車等の大型・特殊車両3台と、成分採血装置一式の寄贈を皮切りに現在も支援を継続。また、県共同募金会による歳末助け合い運動には、平成2年(1990年)から毎年協力し、すでに3億円を越す支援をしており、社会福祉活動や草の根ボランティア活動、災害支援等に活用されている。神奈川新聞厚生文化事業団との関係も深く、同事業団が行っている遠方への旅行が難しい車いすとその家族の方々に北海道や沖縄へ空の旅を体験してもらう主旨の「車いす 空の旅」の活動も支援。多くの喜びの声が寄せられて

「継続は力なり」を実践し、 社会の求めに応じた活動を展開

いる。他にも、各種福祉施設など福祉の現場に個別の要望に応じた支援活動を実施。社会安全や交通安全、青少年の育成活動、ボランティア活動など従来の福祉の枠にはおさまらない活動も含まれている。

2つめは、大相撲やポリシヨイサーカスなどの芸術文化公演やスポーツイベントなどへ子どもたちやお年寄りを招く「福祉自主事業」。

3つめは、協会の社会貢献活動を広く知ってもらい、理解を深めるための「広報活動」。地元紙を始め、様々な媒体への掲載協力を積極的に行っている。

20周年20億円は ひとつの節目にすぎない

こうした多岐にわたる活動の根底にある同協会の理念を荻原多間会長は「業界が浄財を出して設立したこと、社会貢献につとめるべく活動を行っていることを広く周知していただけるよう



常に心掛けてきました。それだけに、真に支援を必要としている方々に手を差し伸べるとともに、時代に即した社会福祉や社会安全を実践しなければならない」と言う。

そのために積極的な情報収集を行い、例えば寄付先は申請された中から必要性・公共性の高い対象に絞って決定する。また自主事業での招待は、行政やボランティアを通じてチケットを配布。配布状況を確認するなど、公平性を保つようになっているという。

今後の抱負を聞いてみた。「20周年をひとつの区切りとして、これからも1つでも笑顔が返ってくるよう、25年30年と続けることですね」

日々の地道な積み重ねを継続することこそが、大輪としての花開くこととなる。



お話を
伺った方

神奈川福祉事業協会
会長 荻原 多間氏

「本当に支援が必要なおところへ
手を差し伸べたい」

福祉寄付事業



共同募金へ目録贈呈

平成2年(1990年)からの支援総額は3億円を超える。



福祉自主事業



室内スケートで歓声を上げる 子どもたち

用具の購入助成などでの形で子どものスポーツ活動をサポート。



劇団河童座への招待

ヘレン・ケラーをテーマにした『アフター・ザ・ミラクル』。子どもたちに喜んでもらえる催しを選んで招待している。

広報活動



広報活動

社会貢献活動への理解を深めてもらうため、新聞広告や防犯啓発活動などにも取り組む。



社会貢献20年20億円達成 ハートtoスマイル かながわ20キャンペーン

かながわ
パチンコ・
パチスロ業界

20年の歩みを振り返り「記念式典」開催

神奈川県遊技場協同組合と関連業界は、「神奈川県パチンコ・パチスロ業界社会貢献20年20億円達成記念式典」を、平成17年（2005年）5月9日に開催した。同組合と関連業界は、社会福祉に貢献するために神奈川県福祉事業協会を昭和60年（1985年）に設立。その後20年間、同協会は社会福祉施設や関連団体、日本赤十字社、共同募金会などに毎年寄付をしてきた。その総額が平成17年（2005年）5月現在で20億円を超えた。内訳は寄付金や福祉車両の贈呈、高齢者を大相撲に招待、「安心、安全まちづくりフォーラム」の開催など多岐にわたる。

式典には松沢成文神奈川県知事、新堀典彦県議会議長、平山郁夫県国際交流協会会長が来賓として出席。松沢知事は「様々

な施策を推進するうえで地域に根ざした社会貢献に取り組んでいる人たちの協力は絶対に必要です。これからも引き続き社会貢献活動にご尽力いただきたい」と祝辞を述べた。第2部は日本ユニセフ大使で教育学博士でもあるアグネス・チャンさんの「みんな地球に生きるひと～子ども達の未来のために」と題した講演と歌で、会場を沸かせた。

また会場内には、これまでに贈られた福祉車両の実物や、社会貢献20年20億円達成のキービジュアルである「友情の木」の作家・まちだけいこ氏の作品展示、国際パラリンピックカメラマン清水一二氏の写真などが展示され、20年間の足跡を顧みながら、多くの参加者が熱心に見入っていた。



会場受付
式典には多数の福祉・ボランティア団体関係者が詰めかけた。



活動を称える来賓者の声
550人も出席者が集まった会場では、活動への賞賛の声が絶えなかった。



アグネス・チャンさんの講演や「車いす 空の旅」の体験者の入場で大きな拍手が。



県内の名士が多数来賓
左から松沢成文 神奈川県知事、新堀典彦 神奈川県議会議長、松尾直樹 神奈川県警察本部生活安全部長、平山郁夫 財団法人神奈川県国際交流協会会長



地域貢献賞

—選考理由—



社会貢献活動審査委員会 委員 松尾 守人氏

神奈川県福祉事業協会という組織を設立して以来20年、変わらず本格的に社会福祉事業に取り組んだ姿勢がまず評価されました。

社会貢献事業が社会を支える極めて重要な活動であるとの認識が早くから組織内に確立されていた証しです。かつその事業が継続されることにより、実績が着実に周知され、今、県民から高い評価を得ています。社会貢献金額が20億円に達したことも立派ですが、その継続を可能にした組合員の認識と協力に敬意を表します。

次年度以降に行われる本事業に関するイベント等では、将来の顧客である子どもや青少年を数多く集めて、遊戯場に対する親近感や安心感の醸成に役立てられたら、と期待するものです。